

平成 20 年度

「学生地域参画プロジェクト」報告書

茨城大学長 殿

① 代表者	所属・学年	教育学部・2年
	ふりがな	ふくだ かおり
	氏名	福田 香

本年度交付を受けた支援経費について、下記のとおり報告いたします。

②プロジェクト名
茨城大学教育学部キッズ・クラブ実施プロジェクト
③活動分野
① 教育・研究 ② ボランティア ③ 課外活動 ④ 地域交流 ⑤ 国際交流 ⑥ その他
④プロジェクトの地域連携先
水戸市教育委員会、水戸市内の小学校
⑤プロジェクトの実施概要
<p>(1) プロジェクト概要</p> <p>このプロジェクトは、水戸市教育委員会・水戸市内の小学校と連携し、小学校や学年などの枠を超えてフレンドシップ活動を行います。また、子どもが体験的活動を通して『理科離れ』が叫ばれる中、科学技術や自然、ものづくりへの興味関心を深めます。学生も地域の子どもたちとふれあうことで、通常の授業では学ぶことが出来ない子供たちの行動や考え方などの生き生きとした子どもの姿を知り、それに対応する力を養うことができます。</p> <p>(2) 連携の方法・内容</p> <p>水戸市内の小学校を訪問して活動を説明し、募集の協力を依頼する。</p> <p>(3) 実施計画</p> <p>7月5日 キッズ・リーグ・・・体を動かすゲームや競技を楽しく行います。</p> <p>7月19日 職人になろう！斎木先生担当・・・掛け軸を身近にあるもので作ります。</p> <p>8月22日23日 自主企画・・・理科の実験を行います。(草木染め・結晶)</p> <p>9月20日 木で作って使おう！大谷先生担当・・・木材を使って工作をします。</p> <p>10月25日26日 天体観測・・・岡村先生の指導のもと手作りの望遠鏡で天体観測をします。みんなで夕食を作りながら交流を深めます。</p> <p>11月8日 竹野先生担当・・・ものづくりを行います。</p> <p>11月29日 自主企画・・・簡単な調理を行います。</p> <p>12月20日 クリスマスレクチャー・・・学内講師の方を呼んでレクチャーを行います。</p> <p>(4) 期待される成果</p> <p>日常生活ではできない経験を通して、さまざまなことに興味・関心を持ち、それによって体験的活動の機会が増やす事ができる。違う学年・学校の子ども同士での交流を持てる。学生は、子どもとふれあうことで、実践的な体験・指導ができるようになる。</p>

⑥プロジェクトの成果

本プロジェクトの実施に当たってはまず、水戸市内にある小学校に協力していただき、「キッズ・クラブ」に継続して参加できる小学生メンバーを募った。昨年から引き続き参加してくれている小学生メンバーもいたが、新たに参加してくれた小学生メンバーもおり、少しずつではあるが地域の方々の認知が高まっていることが伺える。また、プロジェクト実施に対し、保護者の協力が一層強く感じられた。

「キッズ・クラブ」実施による特筆すべき成果として以下の3点が挙げられる。

第一に、学生が企画を考える過程において、実際の子どもの姿を考えながら取り組めたことにある。1度きりでなく繰り返し企画を行ったことにより、子どもの特徴や考え方、行動を知り、検討・反省し、次の企画へと生かしていくことができた。必ずしもうまくいくことばかりではなかったが、教員を目指す学生にとって生き生きとした子どもとふれあえる機会となったことも成果であろう。第二に、子どもの変化である。はじめの頃は同じ学校の友だちとしか話していない様子が見られた。ところが回数を重ね、作業を共にすることで最後の頃には違う学校や学年であっても楽しそうに話している姿を見ることができた。また、体験的活動によって得られたものは子どもによってまちまちであり、私たちが直接知ることではできなかったが、今後の生活のなかでプラスとなることを期待したい。第三に、地域との関わりである。企画の中で子どもは大学教授とふれあい、大学ならではの最高水準の知識や技能を生かした活動を行った。このためキッズ・クラブに参加した地域の子どもはもちろんのこと、その保護者など、地域のなかで茨城大学を身近なものとして感じてもらえたようだ。

今回支給された費用により、企画を行う際に必要な物品を購入することができたため、子どもが気軽に参加することができた。また、牛乳パックや卵の殻など、購入するばかりでなく身近なものを活用した企画を行ったために、学生・子ども共に再利用することへの関心も高めることができたように思う。だが企画を練るのに時間がかかってしまい、計画性を持って物品を購入することができなかった。そのため学務や会計の方に迷惑をかけてしまうこととなってしまった。

本プロジェクトで学んだノウハウを生かし、学生・子ども・地域にとってよりよい活動となるよう来年度へとつなげていきたいと考えている。

⑥プロジェクト参加者（代表者を含む。別紙可）

氏名	所属（学部・学科、大学院・専攻名）	学年
櫻村 彩沙	教育学部・家庭選修	2年
小竹 博明	教育学部・技術選修	〃
福田 香	教育学部・社会選修	〃
渡辺 延仁	教育学部・技術選修	〃